香美市立美術館

アートの窓

YOSHIO　YOSHIMURA

色鉛筆で描く彼岸と日常　吉村芳生展

4月6日（土）～5月25日（土）

▲無数の輝く生命に捧ぐ

このたび、香美市立美術館では、吉村芳生展を開催します。この展覧会は、「もう一度見たい」という多くのお客さまの声にお応えし、平成19年に開催した**色鉛筆で描く花の世界　吉村芳生展**に続く、2度目の展覧会となります。

山口県徳地在住の吉村は、鉛筆を表現手段として制作を続けてきました。吉村は鉛筆で規則的に細かいマス目を埋めていく作業によって、作品を生み出しています。描かれた花々は、写実表現の限界を超えてまぶしく光り輝き、それはまるでこの世のものではないかのような妖気さえ漂わせています。現実の描写であるはずの花々が、眼前に現れ、美しく咲き誇る花々の先に未知なる世界が見えてくることに気付かされるでしょう。

一方で、吉村は毎日発行される新聞の第一面に、その日の自画像を重ね、新聞紙まるごと一字一句手作業で写し取る作品を制作しています。さまざまな出来事を報道する新聞は、日々、刻々と変化する『日常』そのものですが、そこに描かれる自画像も生命体である限り、変貌し続けています。

吉村は紙面に現れる過酷な世界の現実と、永遠の美が存在する彼岸に咲く花々を対比させることにより、世界の深層を指し示しています。

今回、パリに滞在して、吉村が冬のパリで沈みがちになる気持ちを奮い起こして取り組んだ、フランスの新聞をベースに描いた自画像作品『パリの自画像』の中から500枚を展示します。これらは、孤独と苦しみの中での苦行であり、成果であるといえます。この困難に立ち向かって達成された作品を、ぜひご覧いただきたいと思います。

（館長・都築房子）

▲パリの自画像

100歳100年展 作品募集

『100歳100年展』と題し、館収蔵作品とともに、85歳以上の方が制作した作品を展示する企画展を開催します。長い年月を生き抜いてこられた方々の作品をぜひ美術館にお寄せください。

展示期間　11月9日（土）～12月15日（日）
募集期限　7月31日（水）
出品資格　香美市在住で85歳以上の方。1人1点
搬入先　香美市立美術館
出品料　無料
出品作品　自身が制作した絵画・書道・写真・工芸品・手芸品・ご自身の写った写真や手形など

※作品搬入に関しては、希望される方にはご自宅までお預かりにお伺いします。また、ご本人の写真撮影なども職員がお手伝いさせていただきます。
※作品は企画展終了後、返却いたします。

◆問い合わせ・連絡先　市立美術館☎53−5110

香美市文芸

風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

春の風靴をならして歩み初む　楮佐古きよ
大寒に動かぬ緋の鯉水中花　福留とものり
思ひ出を辿りてゆけば花の雨　山崎　貴子
和みとや変わらぬ位置に蕗の薹　森本　幸美
着膨れや荷車押して朝の市　山﨑　寿美
蕗の薹花咲きそろい春を待つ　坂本美智子
兎も角も地下足袋履こう寒ゆるぶ　岡田美代子
ゆうゆうと鷺の飛び立つ冬の沢　北村千鶴子
香り待つ柚子の苗木に水やりて　有澤　春江
冬ざれて対岸の音近くなる　千頭　野草
度忘れの擂粉木探す四温かな　森本　純喜
雲雀鳴き舞い上る畑産卵す　高野　和一
待ちかねて待ちかねて見る桜かな　三谷　誠郎
山家の灯雪しんしんと救急車　上池　児末
みちのくや春はかならずきっと来る　公文多賀子
曲り角ろう梅の香の浴むほどに　小原　子川
荒城の月のしらべや寒の風　小原　景守
地鳥飼い今年の春も水止まり　小野寺朱実
亡き友にふと逢ひそうな小春径　都築　忠義
カラカラと枯れ葉転がる春一番　坂本土佐男
けぶる雨蛙が背中湿し居り　山本　太幸

◆韮　句　会◆

四・五日の日記スランプ寒もどり　公文　春紀
ぶらんこや幼な子の背をそっと押す　高橋　章
十回で替わる約束半仙戯　明石ゆきゑ
誰彼の句集積ん読二月尽　北村　幸子
梅林の一枝一枝に日あたりぬ　西川　常夫
教室の窓にお天守卒業す　甲藤　卓雄
夕日いましろがね色に猫柳　野崎　典子
工事場の焚火にまろく朝の会　北村　里子
ぶらんこに子供の笑顔乗せて漕ぐ　小野川順子
佃煮にしてみました蕗の薹　前田　芳子
ぶらんこの高さ競いし日々遠し　中内ゆかり
ぽっと火が点りバレンタインの日　竹内　ろ草

◆かがみ野俳句会◆

海の紺展げきったる梅日和　佐竹　洋子
大根引く八十婆のふんばりて　佐藤　幸
酢海鼠や晩酌の父眼裏に　利根　弘子
春愁未だ還らぬ陸奥の人　古川　信子
窓開けて仏間へ入れる梅の風　小松　愛子
争ひてつひばむ撒き餌霜崩る　中澤　美晴
春ショール少しきつめに朝散歩　森本　倢代
山の香を束ねて滝の氷りけり　山﨑　鈴子
如月や卒業証書子等と漉く　宮地　亀好
春寒や箍の抜け落つ醤油樽　吉田　芳

◆かほく俳句会◆

おもながの巫女は村の子秋葉祭　乾　真紀子
元朝や卒寿を迎へまだ夢を　奥宮さとみ
久方に揃ふ家族や初恵比寿　黒岩　幸女
着膨れて影もまん丸剪定婦　久保内鏡子
田の神を迎へんとして畔を焼く　黒岩千英子
兄二人白寿米寿や春を待つ　小松　隆之
末黒野にやさしき夜雨とぞなりぬ　小松　完
冬ざれや母松遺木の槙緑　小松　昇
端渓に適ふ奈良墨書初めす　杉山　春萠
青天の霹靂バレンタインデー　野村　里史
寝相佳きお山様裾笑ひだす　前田　欣一
年重ね寒さに耐へてジム通ひ　前田　秀女
マネキンの腕伸びやかに春立てり　間崎　和代
川涸れて向う岸まで声届く　森本　之子
伸び易き爪切り直し春を待つ　山崎かずみ
普段着で通ふ温泉去年今年　山中　晶子
百姓が戦略を練る二月かな　山中　瑞輝
奔放に伸び蠟梅の香を広ぐ　山中　明石

◆土佐山田町俳句会◆

嵯峨野辺はひとりでそれも冬が良い　明石　韮生
春さむや燗のこと云ふ古厨　大石　邦男
庭石の家守るごと寒に耐え　前田　小夜
ケイタイは持たず丸切り大根干す　前田美智子
白れんやアンパンマンの町灯す　森田　菊恵
桜東風磨崖不動の涙跡　安丸　槇子
日脚伸ぶのび放題に髭のびて　橋本　昭和
山峡に空家は朽ちて梅の花　笹岡　英世
凄まじき野焼の音に出る狸　森田　貞男
紀元節祝ぐ校長がいて桜　樫谷　雅道
残り火となりし茶房の薪暖炉　田村　一翠

今月のキラリ

春の風靴をならして歩み初む

穏やかな春の日差しの中で、お孫さんが初めて歩いた。その感激を詠んだ句。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782−8501（住所記載不要）
FAX 53・5958